

**久留米広域連携中枢都市圏  
27年度 第1回ビジョン懇談会 全体会 議事録**

(1) 日 時：平成28年1月15日（金）10：00～11：05

(2) 場 所：えーるピア久留米 3階 301・302 学習室

(3) 出席者：ビジョン懇談会委員30名（3名欠席）

事務局4名

各市町企画担当職員、各ワーキンググループ職員

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 次第及び議事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

**1. 開会**

**2. あいさつ**

**3. 委嘱状の交付及び委員紹介**

**4. 連携中枢都市圏構想の概要**

①連携中枢都市圏構想について

②連携中枢都市圏ビジョン懇談会について

**5. 座長、副座長の選任及び分科会会長の指名**

**6. 議事**

**(1) 都市圏ビジョン（案）について**

**〔都市圏ビジョン（案）について説明（第1章～第3章まで）〕**

○目標値に設定している圏域人口46万人は、社人研が推計した値より2.1万人多いが、これは、このビジョンの取組による成果として考えてよいか。

●社人研の推計については、当初の人口が住民基本台帳と比べると少ないので丸々2.1万人が成果になるということではないが、今後、推社人研の計では急激に人口が減少していくところを、この都市圏ビジョンの取組により、より緩やかにするという考えのもと設定させていただいた。

○連携中枢都市圏の運営体制を教えてください。

●連携中枢都市圏の運営体制については、4市2町で構成する行政の組織体として「連携中枢都市圏推進協議会」を設置。その中に4市2町の所管課によるワーキングを設置し、具体的な取組み等を検討する。最終決定については首長の会議により決定する形を取っている。

○策定された都市圏ビジョンについては、各市町の取組みとしての実行性は担保されているのか。

●都市圏ビジョンは、久留米市のみで策定するのではなく、4市2町で合意の上、決定する。この都市圏ビジョンで計画した取組みについては、必ず実行していく考えである。

○平成22年までの国勢調査では、小郡市と大木町は人口が増加している。この要因を教えてください。

●この2市町には、西鉄大牟田線が通っており、非常に交通の便がよいということが、人口減少の抑制の大きな要因ではないかと考えている。

○この後、各分科会に分かれて審議を行うことになるが、分科会の枠に留まらず、広くご意見をいただきたい。

**〔事務局から今後のスケジュールの説明〕**

○これで本日の懇談会は終了する。